

3 山それは

松本繁文

仲間と一緒にラッセルした尾根を吹雪に吹かれて、アイゼンならして歩いた稜線を下山の時、仲間とふりかえり見た時ぼくの心の中に燃え上がるものが山です。

ガンバリ歩く仲間の顔に光った汗をクラックの中に小さく咲いた花の水滴に映ったあの大きな青空を思い出し見た時

ぼくの心に燃え上がるものが山です。

重い荷物に苦しんだあの時やっとの思いで荷を上げたあの日を思い出し見た時

ぼくの心に燃え上がるものが山です。

アタック終えて帰ったテントの仲間の握手に、なみだ流したあの時仲間と肩くみ合って、喜び合ったあの日を

語り合うその時ぼくの心に燃え上がるものが山です。

星空の下で、飲みあかしたあの仲間の顔

暗いテントの中で話し込んだあの時を思い出し見た時ぼくの心に燃え上がるものが山です。